

令和5年度予算編成方針

令和3年度に第1期中期目標期間が終了し、第1期中期計画に基づき予算執行を行った結果、各年度の経営努力により生じた積立金は、第1期中期目標期間終了時点で69,846千円となった。積立金については、第2期中期目標期間への繰越額として全額承認を受けたことから、第2期中期目標期間における教育研究等の質の向上及び組織運営の改善のための費用として計画的に充当する。

令和5年度は、第2期中期目標期間（令和4年度から6年間）の2年目であり、また、情報学部 completion 年度となる。予算においては、収入では情報学部が completion 年度となり、本学の経常的収入の大柱が固まることから、引き続き授業料、入学金及び検定料等の着実な確保を行いつつ、自己収入の獲得を図ることで安定的な財政基盤を構築する必要がある。支出については、引き続き業務コストの抑制に努めるとともに、中期計画の遂行に必要となる事業に対し適切に予算配分を行うよう予算編成する必要がある。

このため、令和5年度予算は、収入については引き続き授業料をはじめとする自己収入等の拡大に努め、支出については以下の重点項目に優先的に財源配分を行い、年度計画の記載内容に則した事業を遂行できるよう適切な予算編成を行う。

【予算編成上の重点項目】

1 福知山モデル実現にむけた教育研究体制の充実

令和6年度の地域情報学研究科の設置や福知山モデル研究会の議論を踏まえた教育研究体制のさらなる充実を図る。

2 学修支援のための施設・環境の充実

福利厚生環境・学修支援の充実に加え、学内外での多様な活動支援など学生の満足度向上に資する施策を充実させる。また、長寿命化計画に基づく施設保全とあわせて中長期視点に立ったキャンパス整備構想の策定に必要な経費を計上する。

3 情報インフラ整備と運用の強化

教育研究業務を効率的に行うためのインフラ整備と運用の強化を進める。